# モンゴルと日本における愛国心の意味
## ── 日本人学生を対象とするアンケート調査を通じて ──

Bayasgalan Oyuntsetseg

目　次

１．本研究の動機、目的
２．モンゴルにおける愛国心教育
３．日本における愛国心教育
４．むすびに

### １．本研究の動機、目的

筆者は2009年と2010年に、韓国と中国で道徳教育に使用する教材と指導法を調査した。その間、日本の小中学校の道徳教育を見学しながら、指導内容と指導方法について勉強してきた。韓国の高校の先生のインタビューの中で一番印象に残ったのは、「愛国心」という言葉である。「自国が世界で一番ということを教えないといけない。モンゴルではチンギスハーンが皆の誇りであろう。いかに国が豊かではなくても、わが国が好きだという子どもを育てないといけない。愛国心は道徳教育でとても重要な内容である」と熱く語っていた。この先生の言ったことが韓国の道徳科の教科書にも表れている。道徳科の教科書の最初のページには太極旗と「国旗に対する誓い」が書かれている。その誓いの言葉は、「私は誇りある国旗の前に自由であり正義ある大韓民国の栄光のために忠誠を尽くすことを固く決意する」と書いてある。さらに、道徳教科の国定教科書に、「平和統一」という主題で歴史的な出来事や北朝鮮についての記述があり、政治教育・歴史教育と道徳教育を統合しているようにも伺える。日本の道徳教育と異なって、教科として評価していることもあり、道徳教育で愛国心教育も含めて、国家意識の発揚を目指しているような印象を受けた。

中国の学校では、かつての社会主義時代のモンゴルの学校を感じさせる風景がある。首に赤いスカーフを巻いた共産党少年団の姿が見える。中国では全校集会で国旗掲揚を毎週行うという。一方、モンゴルでは伝統文化のよさを感得させることを通してモンゴル民族への心情的一体化を追求する愛国心教育が推進されている。伝統文化とともに、国歌斉唱、国旗掲揚の意義を教え、国家への帰属を誓う教育も行われている。国旗・国歌に対し

て正しい認識を持たせるために、授業前に胸に手をあてながら国歌斉唱をする学校もある。

一方、日本においては、「愛国心」を学校教育の場で教えることについて、複雑な問題を包含している。筆者は日本留学時代（2003年から2010年）、総合的な学習の時間における国際理解教育の外国人講師として、4年間、モンゴルの文化などについて日本の小中学生に教える機会をもった。それは同時に、日本の学校における愛国心教育の実情を理解する機会でもあった。特に、筆者が担当した国際理解教育の授業は忘れらないものであった。ある小学校4年生のクラスで、モンゴルの国旗について説明した後、日本の国旗について子どもたちに聞いてみた。すると、真ん中の赤いのは「サクランボ」、「ボール」、周りの白いのは「雲」という答えがかえってきたのである。「太陽」、「お日様」という子もいたので、分かっている子どももいたと思う。しかし、周りが白いのはなぜか誰も答えなかった。担任の先生も正しい意味を教えようとしなかった。私は聞いてはいけないことを聞いてしまったような気分になり、次の授業から日本の国旗について聞くことを止めたのである。しかし、モンゴルの同じ年代の子どもは、モンゴルの国旗や国歌について勉強するし、モンゴルの民族衣装を着る週間を決めている学校も少なくない。伝統文化は愛国心教育の重要なテーマであるからである。

この国旗のほかにも、筆者は、日本の学校における愛国心の実情について、直接的、間接的に理解を深めることができた。たとえば、日本の学校では、卒業式等で国旗掲揚の際、教師が起立する・しないで問題になることもあると聞いたが、その背後には、国歌・国旗などに触れずとも、常に自身の内奥に国や自分が住んでいる地域への誇りを持つように指導できるとの考え方があるようだ。また、近年、「愛国心」という言葉そのものは積極的に使わないものの、「道徳の時間」や社会科などを中心に、国を愛し、日本のために尽力した歴史上の人物や偉人の生き方を学ぶことで「国を愛する心」を育むことが目指されている。特に、外国の歴史・文化や風俗習慣等の理解を深め、国際社会において尊厳と信頼の得られる日本人育成を目指して、教科外活動で様々な取り組みが行われている。国際教育の重要なテーマは、他国籍の人と理解し合い、互いを尊敬し、協力し合うことである。上述の筆者自身の日本の学校での授業も、そうした国際理解教育の一環であった。そのほか、外国人による英語教育にも力をいれ、外国人の英語講師を配置し、コミュニケーション能力の育成や英語教育の充実を図っている学校もある。こうして、ほとんどの学校が総合的な学習の時間等に国際理解の内容を取り入れており、他国の文化の学習や体験を通して、日本のよさに気付かせようとする教育活動が推進されている。この点が、日本の愛国心教育の特徴であるように思われる。

このように、筆者がこれまで見聞してきた日本の道徳授業の実践や資料などを韓国、モンゴル、中国のそれと比べてみると、日本の小中学校の道徳教育は、ストレートに「国を愛することの大切さ」などの表現はあまり使われていない。あるいは、そのような内容を扱う授業はほとんどないように思われる。したがって、一見すると、日本では愛国心についての教育が積極的に行われていないようにも見える。このような愛国心教育をめぐる日本の特異な状況はどう受け止めればいいのだろうか。その点で一考に値すると思われるの

は、日本の学校教育を経験してきた学生たちが、自分の国を愛するということやそのための教育についてどのように考えているかということであろう。

現在、日本では「道徳」の教科化をめぐって活発に議論が行われている。そうした中、日常生活で他者と関わる中で、国や社会の一員としての意識をいかに育成するか、学校における愛国心教育はどうあるべきかを考えることには少なからぬ意義がある。以下では、まずモンゴルでは愛国心教育がどのように考えられ、議論されているかを整理し、次に、日本において学校教育の内容の指針となっている学習指導要領を手がかりに、日本の愛国心教育がどのように考えられているかをまとめることにする。続いて、かつて小中学校でそのような教育を経験してきた現在の大学生が、国や愛国心の教育について、どのような考え方をしているかを、アンケート調査によって探ろうとするものである。

なお、本稿では、「愛国心」という言葉を、基本的な自然の感情として、誰にもある祖国の文化や伝統への愛着として捉え、「祖国に対する愛情」という意味で使用した。また、「愛国心教育」は、人は当然、自分の生まれたその国を愛さなければならないという硬く強制的な教育ではなく、国を大事に思う心の大切さを教える教育という意味で使用する。

## 2．モンゴルにおける愛国心教育

### （1）モンゴルにおける先行研究と教材で示されている愛国心教育

ここでいうモンゴルとは、社会体制が民主主義に変わった、1990年代以降のモンゴルのことである。

社会主義崩壊後のモンゴルでは、「愛国心」は、自由主義、民主主義と同様に、人々の国を愛する素朴な感情であると同時に、新しい国民国家のイデオロギーとも絡み合うようになっている。多くの研究者が指摘するように、1990年から始まった社会体制改革後、現在も続いている社会混乱は、価値観の喪失によるものであった。その結果、現在も、モンゴルの社会全体がアイデンティティの危機に見舞われていると言われている。「精神的な空白」という表現もよく使われるようになり、その一方で、愛国心という言葉が一般の人々の議論で広範に用いられるようになった。

社会の精神面での混乱に批判が集中するなか、社会全体に悲観主義が充満しており、人々は自分自身、国の将来について悲観的な考えに支配されるようになっている[1)]。この様子は、当時の世論調査や書籍、研究報告書、新聞などから伺える。たとえば、モンゴルで読者数が最も多い、Unen、Zasagiin gazariin medeeなどの新聞に、道徳的退廃を問う「道徳的文化[2)]」、「道徳的腐敗[3)]」、「過ちと後悔[4)]」などの記事が掲載され、公務員の汚職問題や政治腐敗など、社会の風潮を批判している。少なくともこういう感覚に多くの人が

1） モンゴル科学アカデミー『モンゴルの倫理思想史』Arvin-sudar出版、2009年、p. 217
2） Unen新聞、1989年、48号
3） Unen新聞、1991年、9号
4） Zasagiin gazariin medee新聞、1998年7月29日、147号

囚われている。

2007年にモンゴル科学アカデミーが実施した世論調査によると、「コネが多い人（48.8％）、金持ち（23.1％）が、よい生活をしている[5]」、1992年の世論調査で「精神的な空白（35.0％）、無責任感、秩序の乱れ、犯罪増加（55.4％）」を心配している[6]。1993年の世論調査で「社会秩序、倫理的なマナーの堕落、犯罪の増加、凶悪化を最も心配している（70.1％）[7]」という回答が得られている。

S. Batmunkhは『悪いモンゴル人』という著書で、「現在のモンゴル人は、歴史を知らない、他人を批判しがち、他人に依存しがち、怠惰さ、他人をねたむ、噂をたてるのが好き、極端論者である[8]」と批判している。B. Batchuluunは「自我の悪い性質」という新聞記事で「モンゴルは経済的・政治的混乱のみならず、道徳的腐敗に陥っている[9]」、同様にTs. Balkhaajavは「若者よ、名誉を売らないで」という記事の中で「仕事をいやがる、秩序を無視する、他人をだます、他人を信頼しなくなっている。価値多元主義の名の下で楽観論に走っている[10]」ことを指摘している。さらに、モンゴル科学アカデミーは『モンゴルの倫理思想史』で「愛国心、人道的精神、自然愛護、高い責任感、勤労精神、健全な『思い』・『言葉』・『身体』を持った人が望ましいモンゴル人の姿である[11]」とまとめている。ここに示されているのが、民主的な社会に適応した新たな公民的態度、成熟した社会、愛国心的な心情である。これらの指摘から、愛国心の高い国民道義を確立することが民主主義国家としてモンゴルを再建する基本だと強調されていることが分かる。その一方、社会の現状に対する人々の不満が、愛国心を呼び覚ます１つの要因になっていたことも間違いないだろう。こうして、社会体制の変更過程において、価値観をたえず変化させようとする圧力にさらされる中、モンゴル独自の文化を守り、再興させようとする愛国心が興隆している。この愛国心には、伝統崩壊的な発展に対する反発が内包されている。愛国心に関する議論の中で繰り返し提起されてきた問題は、伝統、習慣、文化の回復である。この伝統、習慣、文化は、遊牧文化のみならず、望ましい生活習慣、生命尊重、共存共栄、公正、公平、公共心、助け合い、誠実さ、勤労を重んじる態度など、人々の精神生活を支えている道徳でもある。

そして、経済が安定し、人々の生活が回復しつつある現在、時代に合わせて漸進的に変化する中で、モンゴル固有の文化に目を向け、精神の指針としようとする勢いが増している。その原動力は、大事な価値観や伝統・文化が失われているという危機感であるように思われる。この危機感が、愛国心を発揚させる原因の１つであると言っても過言ではないだろう。

---

5） モンゴル科学アカデミー哲学・社会学・法学研究所「モンゴル世論調査」第3巻、2007年、p. 14
6） モンゴル科学アカデミー『モンゴルの倫理思想史』Arvin-sudar出版、2009年、p. 223
7） モンゴル科学アカデミー哲学・社会学・法学研究所「国内事情と国民の意見」調査報告書、2007年、p. 96
8） S. Batmunkh『悪いモンゴル人』1991年
9） B. Batchuluun「自我の悪い性質」Ug新聞、1993年、4号
10） Ts. Balkhaajav「若者よ、名誉を売らないで」Zasagiin gazariin medee新聞、1994年7月15日、52号
11） モンゴル科学アカデミー『モンゴルの倫理思想史』Arvin-sudar出版、2009年、p. 238

事実、多くの研究者によって「豊かな人間性を育成するための重要な柱は、伝統を継承させることであり、伝統と習慣は、わが国のアイデンティティそのものである[12)]」。「伝統的な習慣の現代的意味や重要性を正しく認識させる必要がある[13)]」ことが指摘されている。

そして、学校現場において、1990年代から国を愛する心情を育てることに力を入れ始めた。教育法では、教育の目標について「知的水準が高く健康的で公正および法令を遵守し、祖国および自然を愛し、美的感覚が豊かで、独学能力があり、生活・労働する力がある人間を育てることにある[14)]」、「健康的な身体、知的能力、法令を遵守する人道的な精神および美的感覚を学習させ、独力で学び、生活する能力を植え付けることにある」と規定している[15)]。また、初等中等教育法では「初等中等教育学校は、愛国心を養い、人道的な性質を身につけさせ、生徒が才能を発揮し、生活および労働の中で、常に学習できるように支援する[16)]」ことが目標として掲げられた。

教育目標の重要なキーワードは、「国を愛する心情」、「祖国および自然を愛する人間」、さらに、「他の国を模倣し、あるいは、他者に依存したり、他者に判断を委ねることはなく、自分で考え行動できる人間」である。この表現から、モンゴルのありように即して、モンゴル独自の方法で内発的に発展する国、自分自身で自分の生き方を決める国民像を伺うことができる。また、個人が自立すれば、モンゴルは自立できるとして、生活能力、つまり生きる力を涵養することが教育の目標とされたことが伺える。こうして、モンゴルという一国の独立を保つには、モンゴル人であるという自己意識を持った、モンゴル固有の文化、精神、伝統で彩られた個人を育てることが目標とされるようになった。

1990年代初めから、学校のカリキュラムで国の伝統・文化を回復させるための「尊重すべき習慣・価値観」（ариун ёс）[17)]、「郷土」（орон нутаг）などの教科が誕生し、伝統や文化に関する教育の充実が図られた。「郷土」は、伝統的な習慣や文化に関する知識を中心的な内容とした教科である。生活基盤として、子どもの日常生活と結びついている郷土に関する知識を教えて、子どもにより良い生き方を身につけさせようとしたのであった。「尊重すべき習慣・価値観」は、「人間関係の習慣」、「勤労の習慣」、「学習の習慣」という3つの項目から構成されている[18)]。これらの教科で伝統的な習慣を媒介とした道徳的価値の指導が行われた。具体的に「郷土」では、生活環境、自然、歴史、文化などの理解を通

12） T. Namjil『モンゴルの伝統的な家庭教育』1996年
13） R. Darikhuu、Z. Tsendsuren『尊重すべき習慣・価値観』中学生用読み物資料、Sod-press出版、2007年
14）「1995年の教育法」『Ardiin erh』新聞、142号、1995年8月21日
15） Sh. Shagdar『モンゴル教育史』Bembisan出版、2000年、p. 298
16） 初等中等教育法第2条1項
17） 1991年から1992年の学年度から小学校第1年から第4学年に設けられた教科。各学年の内容を以下に示す。第1学年：伝統的な祭りの決まり、人間尊重、先生と生徒の関係、生徒規則、家庭で守るべきもの、本を大切にする、読書を習慣化する、子どもに関する習慣（子どもに名をつける習慣、子どもの初髪を切る習慣等）、正しい言葉づかい、勤労に関する習慣（勤労の意義、家事）。第2学年：（人間尊重、伝統的な挨拶の仕方、衛生管理、伝統的な住居に関する習慣、伝統的な遊び、自然保護に関する習慣、食文化、勤労に関する習慣(家畜の年齢を歯・毛で判断する方法等)。第3学年：人間尊重、手紙の書き方、季節の挨拶用語、人間を正しく判断できる力、勤労、芸術・民謡歌、葬儀に関する習慣、崇拝。第4学年：人間尊重、芸術・伝統的な手芸、家族の習慣、愛国心、宗教に関する習慣、商業に関する習慣、タバコとアルコール類に関する習慣、格言等。
18） モンゴル教育省（旧名称）「尊重すべき習慣・価値観」」（ариун ёс）教師参考書、1991年

じて家族愛、愛国心、連帯性、民族意識、社会性、公共性、伝統的文化を大切にする心を涵養することが目標とされた[19]。「尊重すべき習慣・価値観」では、子どもの命名の時の習慣、子どもの初髪を切る習慣、養子に関する習慣、伝統的な祭り、勤労に関する習慣、伝統的な挨拶、手紙の書き方、季節の挨拶用語、伝統的な住居に関する習慣、伝統的な祭りと遊び、自然保護に関する習慣、正しい食文化、遊牧文化に関する習慣、土地に対する習慣、動物狩猟に関する決まり、葬儀に関する習慣、自然崇拝や宗教に関する習慣[20]などを取り上げている。民族意識の萌芽や愛国心の涵養を目的とした郷土学習が、道徳教育においても重要な意味を持っているといえる。現在、これらの教科が廃止され、「人間と社会」（хүн-нийгэм）、「人間と環境」（хүн-байгаль）、「社会性」（иргэншил）などが新設された。その中で、国に対する誇りの感情を高める上で重要な役割を果たしている科目として、または愛国心教育を象徴する科目として、公民教育（иргэний боловсрол）を取り上げることができる。

公民教育は、国民一人一人が社会を作り出しているという、自覚的な公民的意識を高めるための科目である。公民教育は民主主義、基本的人権、秩序愛好の精神、平等、伝統・文化継承などの公民的価値を教えることを目標としている。伝統と文化を尊重し、自然環境の保全に寄与するなどの徳目を列挙しているが、その要に「愛国心」が位置している。そして、それらを核とするモンゴル人としての自覚が求められている。

公民教育は「伝統・慣習」と「現代の公民」という２つの基本領域から構成される。12年制の普通教育学校の各クラスで28～35時間、12年間通算で406時間が設けられている。「伝統・慣習」に関する領域は「人格形成」、「伝統的な生活習慣」、「民族遺産、民族の誇り」という下位項目、「現代の公民」の領域は「公民の自己修養、能力」、「公民の責務」、「公民と国家の関係」という下位項目から成り立つ。「伝統・慣習」の領域は、初等教育で７割を占めている。伝統・慣習、民族遺産、民族の誇りについて、小学校で毎週、勉強していることになる。ここでいう伝統・習慣とは何か。たとえば、伝統的な習慣に関する項目で、祖先の生い立ち、家系図に関する知識を重要視するため、小学校で自分の家系を３代から９代までさかのぼって覚え尊敬するように、家系図を作ることを教えている。ここには、子どもが自らの歴史的・社会的位置を知り、祖先からの血縁を受け継ぐ氏族の一員として、また同じ時代に生活をともにする家族の一員として、将来は、モンゴル人としての誇りと責任感を持たせようとする狙いがある。教材には、「歴史を分からない人は盲目と同じ。自分の家系を分からない人は家畜と同じ」[21]と書いてある。このように、伝統・慣習、民族遺産、民族への誇りを内容としたモンゴルの公民教育は、非常に特徴的な科目である。ここで注目すべきことは、愛国心は公民的価値を構成する１つの概念

19） モンゴル教育文化科学省『初等中等教育スタンダード』Sod-press出版、2003年、p. 16

20） R. Darikhuu, Z. Tsendsuren『尊重すべき習慣・価値観』（ариун ёс）中学生用読み物資料、Sod-press出版、2007年

21） モンゴル教育文化科学省『初等教育課程における公民教育のカリキュラムと提言：第1学年および第3学年』2011年、p. 11

とされていることである。そして、自然に対する敬意、家族愛、社会・国家の発展に寄与する公共・協働の精神などの伝統的な精神を通じて愛国心を涵養しようとしていることである。つまり、伝統継承と接合した愛国心教育が学校教育で推進されているといえる。

次に、公民教育と社会科の教科書では愛国心がどのように教えられているのかを見てみよう。まず、小学校の公民教育の教科書に即して、指導のねらいが主として愛国心に関する主題名を挙げる。小学校第１学年で19の主題がある。それは挨拶、父母尊重、先生と私、早起き、食文化、就寝、善悪の区別、モンゴルのゲル、家畜、自然保護、色彩の意味、モンゴルの舞踊、正月、私・他者・私たち、私の義務・責任、私の学校などである。その１つの主題である、「私・他者・私たち」の主題で、はじめてモンゴルの国旗が登場する。「人はそれぞれ違う。だが、私たちはモンゴル民族の子どもであり、チンギスハーンの子孫である[22]」と書いてある。

小学校第２学年では親族、他者尊重、友情、善悪の行動、善行を身につけよう、モンゴルの民族衣装、家畜からの恵み、自然保護、素晴らしい遺産・馬頭琴、国旗・国歌、モンゴルの祭り・ナーダム祭[23]、参加型社会、私の安全、私と他者の財産、学校の規則、私の故郷などを取り上げている。「国旗・国歌」の主題で、国歌、国旗、国章の説明がある。国歌斉唱する際の振る舞い（姿勢正しく、遠く見て、右手を心臓の辺りに当てて信念と自信を持って斉唱する[24]）についても言及している。小学校第２学年で遊牧文化、家畜飼育の伝統、自然保護など18の主題がある。その中で、「わが故郷の伝統」、「トゥグ[25]・国章」、「わが国家と政府」、「我々の誇り」という主題がある。「我々の誇り」には「我々の誇りは、独立した国家、民主主義、モンゴル人そのものである」と書いてある。そして、民族の誇りとなる人物として、チンギスハーン、民主化運動のリーダーとモンゴル民謡の歌手を取り上げている。小学校第４学年でも挨拶、祖先を大事にしよう（５代までさかのぼって覚えよう）、伝統的な食べ物、民族衣装、ヤギと羊の飼育方法、モンゴルの昔話、格言、民族の遊び、モンゴルのゲルでの礼儀作法（マナーやタブー）、大晦日の慣習、国家から提供される公共サービス（税金の徴収方法と使い道）などの主題がある。これらの内容をもとに、公民教育における愛国心教育の内容を、①公民に対する国家の役割、国家を大事にする公民の精神などに即して公民的意識を育てようとするもの、②伝統、文化、習慣などに即してモンゴル人として、国家や民族に対する誇りを育てようとするもの、③国歌、国旗、独立などを取り上げて、愛国心を育てようとするものに大別することができる。

次に、ウランバートル市教育局が発行した教師参考用『公民教育の指導資料』を取り上

22）　モンゴル教育文化科学省『公民教育第1学年教科書』Munkhiin useg出版、2012年、p. 34

23）　毎年7月11日の革命記念日にちなんで、7月11日から13日の3日間にわたって、首都ウランバートルや各地で開催される。モンゴル相撲、競馬、弓射）の3つの競技が行われる。これらを「男の3つの遊び」と言う。ナーダム祭はモンゴル人にとって盛大な祭りである。モンゴル民族としての一体感を共有する意味合いもある。

24）　モンゴル教育文化科学省『公民教育第2学年教科書』Munkhiin useg出版、2012年、p. 37

25）　馬の尻尾を夫々の9本の竿の先端に付けたもの。チンギス・ハーンの権力と帝国の象徴であった。ハーンの天幕の前に据えられ、ハーンの居場と国内の状況を表していた。トゥグの尻尾の色が白ければ帝国は平和であり、黒ければ帝国が戦時中であることを示していた。

げる。指導資料で主題ごとに、指導方法、授業の流れ、評価のポイント、宿題を例示している。主題の中には愛国的な心情を育てることを目標としたものが多数ある。その一部を挙げれば、第６学年「私たちの知っている英雄」という主題で「愛国心の意義」、「独立の意義」に関する資料[26]、第７学年（中学校第１学年に当たる）の「故郷の誇り」という主題で、「歴史の中のモンゴル」、「モンゴルを称える作品」、「モンゴルを称える詩・小説」、「モンゴルを称える歌」、「モンゴルを称える絵画」、「私の心の中の祖国」に関する資料[27]などが挙げられる。

最後に、社会科で愛国心がどのように教えられているのかについてみてみよう。社会科に、「社会制度」、「倫理」、「法制度」、「経済」という領域がある。社会科の教科書で、倫理を「社会の倫理」、「集団の倫理」、「個人の倫理」と分類している。「社会における倫理に愛国心、勤労精神、正義、協調性などがある[28]」と説明し、「モンゴルの伝統文化の根本的な原則は、自然を愛し、民族・国家・故郷を尊重し、生命、兄弟を尊敬することにある[29]」と定義している。ここでは、民族や故郷を尊重し、愛する心情がモンゴルの伝統文化の根幹として位置づけられ、愛国心が徳目の１つとして扱われている。倫理的な社会関係の中で愛国心を捉えているのが特徴である。

初等教育における社会科である「人間と社会」で愛国心をどのように定義しているかみてみよう。「人間と社会」は小学校第４学年および第６学年で年間102時間設けられていて、「私たちの生活と文化の環境」、「法令」、「権利・義務」、「行政機関」について教授している。「私の生活と文化の環境」という領域で自分について家族、親、親戚、友達、隣家、自分の家系、学校、集団、区、市、県、地域の社会、文化、生活、誇りに思う人間、さらに、社会秩序、法令、規則に関する一般的な知識、子どもの権利、義務、地方の行政機関の活動について教授している。教師参考用『「人間と社会」教科指導資料』で愛国心について次のように定義している。「愛国心に関する項目の目標は『愛国心』、『モンゴル人である』意義は、祖国の発展に国民一人一人が貢献する重要性、義務と責任を理解させることにある[30]」。その内容として、モンゴルという名前の意味、蒙古斑、モンゴルの地理的状況、自然、人口、労働環境、遊牧文化、生まれた故郷に対する愛情、故郷を大事にする伝統、祖先の生き方、世界的に有名なモンゴル人（モンゴル帝国、オリンピック選手、宇宙飛行士など）が挙げられている。そして、この項目を教える際の指導上の注意点は、「我々は祖国の主である。現在、祖国が直面している諸問題を皆で取上げ考える」、「国の何に対して誇りを持っているか」、「小さいなことからでもやれる愛国心とは何かについて考えさせる[31]」ように指導することである。学習目標として、「知ることを学ぶ」、「行動することを学ぶ」、「人間として生きる意味を学ぶ」、「共に社会生活することを学

26） ウランバートル市教育局『公民教育の指導資料』Urlakh-erdem出版、2012年、pp. 14-27
27） ウランバートル市教育局、前掲書、pp. 40-51
28） モンゴル教育文化科学省『社会科』高校高校第1学年用教科書、Munkhiin-useg出版、2012年、p. 43
29） モンゴル教育文化科学省、前掲書、pp. 57-65
30） L. Altanzaya, Ts. Delgersaikhan『「人間と社会」教科指導資料　小学校第4学年』、2011年
31） モンゴル教育文化科学省、前掲書、pp. 9-11

ぶ」が示されている。その「共に社会生活をすることを学ぶ」目標の中で「他民族の伝統文化に関する知識を与える」、「他国の文化伝統を尊重すること」についても教える必要があると書かれている。この点が、『公民教育の指導資料』と異なる特徴である。だが、実際には第4学年から第6学年の「人間と社会」教科書に外国文化の尊重に関する項目は盛り込まれていない。

近年、愛国心教育は学校のみならず、政府の多面的な政策によって、一般社会でも具体化されている。学校の外でも愛国心を喚起することを目的とした、種々の教育活動が組織されるようになりつつある。近年の例を挙げれば、唯一の国際空港であるボヤント・オハー空港はチンギスハーン国際空港に変わり、ウランバートル中心部にあるスフバートル広場はチンギス・ハーンの像が建設された。そして、スフバートル広場はチンギス広場に変更された。また、チンギス・ハーンの誕生日が新しい国民祝祭日になった。愛国的式典や国民的な誇りの対象によって、愛国的な感情がさらに喚起されると予測できる。

モンゴル国政府が2012年から2016年の政府行動計画に、「愛国心的心情、生活技法を学習した国民を育成する[32]」目的を掲げ、「望ましいモンゴルの子ども[33]」というプログラムを公布している。その一環として2012年に、モンゴル国国会が「子どものしつけ支援プログラム：祖国36」を承認している。当プログラムの目標は、愛国心的心情、規則遵守意識、健康的な身体、創造的で豊かな知識を持つ、競争力のあるモンゴル人を育てることにある。当プログラムに参加する8000人の子どもは、体育、救命・応急手当の基礎知識、緊急事態における行動、軍隊の基礎知識、将来の専門の選択などに関する授業を受ける。子どもの夏休みのサマーキャンプ、軍事施設、観光地などで実施する計画になっている。2013年8月現在、2500人の子どもが参加した[34]。

国防省国防研究所が2012年に14歳から35歳の若者を対象に行った世論調査によると、自国の文化、伝統、習慣に対し、「とても誇りを持っている」と85.2％が答えている。「深く考えたことがない」が11.8％、「絶望感がある」が3％と答えている[35]。国防研究所から「モンゴル人の愛国心」という教材（モンゴル史、歴史的人物、自然環境、モンゴル領土、観光地、文化、伝統習慣に関する1000の質問から構成されている）と愛国心教育のプログラムが紹介されている。愛国心教育を求める政府の対策は、今後も継続していくであろう。

このように現在のモンゴルで、独自性、自然環境、モンゴル的精神を守るということを掲げ、モンゴルを過激なまでに演出することで、グローバルな世界におけるモンゴルのプレゼンスを高めようとする傾向も出てきている。それゆえ、非寛容的で偏った愛国心が醸成されやすい環境にある。もちろん、伝統文化が盛り込まれたとしても、おそらくナショナルな感情を喚起する上で効果はそれほど高くないかもしれない。自分の国が良くなる可

32） モンゴル国政府「2012年から2016年の政府行動計画」第3項
33） モンゴル国政府第295号令、2013年8月16日付け
34） www.mminfo.mn（2013年8月26日）
35） 国防省国防研究所「モンゴルにおける愛国心、愛国心教育の伝統と進歩」会議の資料、2012年12月2日

能性を信じた熱意と望みには、おのずから客観的な自国批判の精神も含まれているはずである。場所と事態によっては、この感情は民族衝突などの危険を伴うこともある。現在、モンゴルにおいてナショナリズムの勃興が目立つようになっており、自称愛国心グループ[36]も少なくない。自分は愛国心が強いと公言する人も多い。近年の驚異的な経済成長に伴う、貧富格差の拡大に対する懸念などを背景にして、愛国心への関心が新たに高まってきており、近年このようなモンゴルの社会状況が、国への愛の形、国を愛することの意味や持続可能の発展について人々に再考を促している。

### （2）モンゴルにおける愛国心の意味 ── まとめ ──

以上、先行研究や教科の内容に見られるモンゴル人の愛国心の特徴をいくつかにまとめてみよう。

モンゴル人は愛国心が甚だ強固であると言われている。自由や個人主義の意識が強くなっている現在でも、個人主義と愛国心が強く結びつきあっている。愛国心は、自己中心的で金銭至上主義的な考え方が危惧されている今日の社会で、他者や社会全体に気を配り、尊重することの重要性を意識させるために使われている。

愛国心は祖国への思いであり、思想ではない。モンゴル人は愛国心そのものを否定せず、愛国者を自称する人が多い。愛国心の対象は特定の主義主張ではなく、政権与党としての政府でもなく、人々の生活の基礎を支えている国家そのものである。国家は、国民が作った共同体である。国民が自分たちで作った共同体の不正を正すのも愛国心である。教科書でも、愛国心とは何かを考えさせるために、社会の問題や国が抱えている様々な問題の解決策を討論させるような課題が設定されている。また、国家は、個人が国家と向き合い、国家と自分との関係を自覚的に捉え、社会の発展に寄与する、公共・協働の精神を持つように指導しようとしている。

愛国心は、伝統や草原の風景などに対する単なる感情的な愛着だけではない。愛国心には良い国の実現という理想的な意味合いがあり、建設的なイメージと連動している。愛国心は、国家への忠誠という意味だけでなく、「いかにすれば愛するにたる国を作れるか」という問いに関連したことである。自国を平和で暮らしやすい国にしたい、社会を変えたい、改善したいという望みと、自国を良くしたいという「国づくり」への思いが重なり合っている。愛するが故に、健全な国を作ろうとする意志が強くなり、国に対する意識が高まると期待さている。「穴があっても我が家（国）。髪の毛がぼさぼさでもわが母」という格言で表現されるように、愛国心は欠点があっても受け容れる無条件のものである。自国の良いところだけを愛するのは愛国心ではない。

---

36） ツァガーン・ハス愛国心主義者グループ、フフ・モンゴルグループ（青いモンゴル）、ダイチン・モンゴルグループ（戦うモンゴル人）、ダヤル・モンゴルグループ（全モンゴル）、モンゴル・ウンデステニ・ホルボ（モンゴル民族連合）、タル・ノ・ツォーブル・チョノグループ（草原の狼）、ブルハント・ノ・ガザル・ショロ（神の土地）グループなど、愛国主義を唱える18のグループが組織化され、「モンゴル民族の卍グループ」を立ち上げることになったと報道されている。出所：society.time.mn、2013年10月14日のニュース、news.zindaa.mn、2013年10月14日のニュース。

モンゴルの愛国心と文化は、ばらばらにあるものではない。今日のモンゴルの平和を支えているのは、祖先が育んできた伝統文化である。それをなくしては将来の発展を期待できない。愛国心とは、自国の伝統文化に愛着を持つ気持ちである。愛国心は伝統を介して文化と相互に結びついている。その伝統文化は、モンゴル固有のものもあるが、普遍的な徳目という性格も持つ。生活に馴染んでいる民族衣装、食文化、移動式住居、遊牧文化、正月、競馬などの年中行事、あるいは、人々の精神や団結を支えてきた自然共存の精神、助け合いの精神である。

モンゴルでは愛国心という言葉に、国家意識よりも、郷土愛の要素が強い。公共精神、故郷の山や河川、自然環境、命を支えている地域社会、ふるさと、父母・祖先への感謝、伝統文化を大切に受け継いでいこうという決意であり、幅広い概念が含まれている。このような観点から、国を愛すること自体は価値と呼べるものである。

愛国心教育の内容は伝統文化が中心になっている。領土や文化を尊重する教育はモンゴル人としてのアイデンティティを形成する上で重要な意義を持っている。先人たちが育んできた伝統文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付け、自分の生まれ育った領土に誇りを持つことが愛国心の表れとされている。

伝統文化で強調される愛国心教育のもう１つの内容は、モンゴル人の精神である。モンゴル人の精神と言ったときに、モンゴル人が思い浮かべるのは、助け合いの精神、先人への感謝、勤労を重んじる態度、寛容の精神、穏健さ、誠実さ、公共心、自然観などである。このような精神は道徳教育（公民教育）でも徳目として挙げられているものである。伝統文化によって培われてきたこのような精神を発揮することは、愛国心教育の目標であると定義できる。

## ３．日本における愛国心教育

### （1）日本の学習指導要領に示されている愛国心教育

日本人の愛国心を語るには、歴史に対する日本人の意識や、戦前と戦後の日本の愛国心教育について考察しなければ、容易にまとめることができないが、本研究は、日本における愛国心教育の歴史・社会学的研究が主題ではない。現在の日本人学生が愛国心をどう捉えているかを主題とした研究である。まず、アンケート調査を述べる前に、日本の学習指導要領に示されている愛国心教育について簡単にまとめたい。

教育基本法に教育の目標の１つとして「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」と明示されている。自国の伝統と文化に関する知識だけでなく、他国、国際社会についての知識や敬意を育むことを目標としている。自らが国際社会の一員であることを自覚し、自分とは異なる文化の人々と共生し、自他の相違を理解し、多様な伝統や民族に敬意を払うことができる日本人を目指している。

学習指導要領をみると、日本の小学校の社会科の目標は「社会生活についての理解を図

り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う[37]」と示されている。地域の社会生活及び地域の発展に尽くした先人の働きなどについての理解を図り、地域社会に対する誇りと愛情を育てることや、国土と歴史に対する理解と愛情を育てることは、伝統と文化を尊重し、国と郷土を愛することにつながるとしている。社会的義務や責任を重んじ、公正に判断する態度や能力などの公民的資質の基礎を養うことは、道徳教育の第4の内容である「主として集団や社会とのかかわりに関する内容」などともかかわりをもつものである。社会科では、地域社会や日本の国土、歴史などに対する理解と愛情を深めることを通して、社会的な見方や考え方を養い、そこで身に付けた知識、概念や技能などを活用し、より良い社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことを重視している。具体的には、第3学年及び第4学年で「(2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする」の目標を実現するために、自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）について観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるように指導している。「地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例」、「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」などに関する項目を通じて、自分たちの住んでいる地域の社会生活を総合的に理解できるようにするとともに、地域社会の一員としての自覚をもち、地域社会に対する誇りと愛情を育てようとしている。第3学年及び第4学年では伝統的な工業として、陶磁器、塗り物、織物、和紙、人形、筆などがの盛んな地域を取り上げるように勧めている。第5学年及び第6学年では、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学などを例示している。地域の歴史上の人物や重要文化財、世界文化遺産などの中から取り上げ、国の文化などに関心をもつように指導している点でモンゴルの公民教育と似ている。

その他の教科、国語科、技術・家庭科、体育科でも、礼儀作法、慣習、口承文芸、畜産や農業のしきたりなどの伝統や文化に関する内容を扱っており、学習指導要領に掲げている「郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心を育てる」ことを目指している。また、音楽科については、「音楽の共通教材は、我が国の伝統や文化、自然や四季の美しさや、夢や希望をもって生きることの大切さなどを含んでおり、道徳的心情の育成に資するものである[38]」としている。

次に、道徳教育に関して学習指導要領や解説等でどのような考え方が示されているかをみてみよう。現在、日本の中学校では24項目の道徳的価値が横並びに示されている。そして、この24の道徳的価値を学校や生徒の実態に応じて重点化することになっている。24項目の中に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心」が入っている。国を愛する心の教育は、モンゴルのそれと比較すれば、特に重点が置

37） 文部科学省「小学校学習指導要領解説社会編」2008年、p. 12
38） 文部科学省「小学校学習指導要領解説道徳編」2008年、p. 101

かれている状況ではないように伺えるが、教育目標から大事な道徳的価値であることが理解できる。

学習指導要領で児童生徒の道徳性を①主として自分自身に関すること、② 主として他の人とのかかわりに関すること、③主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること、④主として集団や社会とのかかわりに関することの4つの視点から分類整理し、道徳の内容項目を示している。その第4の内容は小学校第1学年及び第2学年では、「(5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ」、小学校第3学年及び第4学年では「(5) 郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ」、「(6) 我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ」、第5学年及び第6学年では「(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ」、「(8) 外国の人々や文化を大切にする心をもち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める」ことに関する内容を取り上げることが謳われている。

さらに中学校では「(2) 公徳心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める」、「(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める」、「(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する」、「(10) 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する」を取り上げており、郷土や日本の伝統、文化について愛する心、関心をもつ心を育むことが目指されている。

学習指導要領からみると、「日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する」だけでなく、「世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する」心情を育てることを目標としている。指導に当たって、他の国には日本と同じように、その国の伝統に裏打ちされた良さがあることやその国独自の伝統と文化に各国民が誇りを持っていることを理解させることに重点を置いている。「国によってものの感じ方や考え方、生活習慣などが違っても、どの国の人々も同じ人間として尊重し合い、差別や偏見をもたずに公正、公平に接する[39]」ことが世界の平和と人類の幸福に貢献するという理想の実現のための基本になるとされている。ここで「国際人として求められる生き方に気付かせる」ように指導することが大切であるとしている。それと同様に、社会科の指導要領にも「我が国や外国には国旗があることを理解させ、我が国の国旗を尊重するとともに、外国の国旗を尊重することが大切である」としている。ここで、指導の留意点、つまり「国を愛する」ことと、「国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する」こととは切り離せない関係にあることに配慮した指導が大切である、という点が注目すべきところである。この留意点が、日本の愛国心教育が国際関係の中で問われていることを意味している。

39) 文部科学省「中学校学習指導要領解説道徳編」2008年、p. 63

具体的な指導内容でも「2．主として他の人とのかかわりに関すること」の「（1）礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる」で「日本には伝統的な礼儀作法があるように、外国にもそれぞれの国に応じた礼儀作法があり、それについても理解を深め、外国の人々に気持ちよく接することができるように指導することが大切である」、「5．それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ」で「互いのもつ異なる個性を見つけ、違うものを違うと認め、ときには許す私心のない寛容の心、偏狭なものの見方や考え方のない広い心を育てることが求められる[40]」と定義している。

これらの内容から日本の学習指導要領で示されている重要なキーワードは「国際的視野」と「伝統と文化の尊重」であるといえる。伝統と文化の尊重を重視している点でモンゴルの愛国心教育と同様である。そこで、このような教育を受けてきた若者たちが愛国心という概念について実際にどのような考え方をしているかを探っていくことにする。

### （2）アンケート調査に見る日本人学生の愛国心の考え方

日本人学生が自分の国や国を愛するということについてどのように考えているかを探るため、千葉県の2つの大学の学部生、123名を対象に簡単なアンケート調査を行った。質問は、以下に示すような5つの項目で、学生は、自分の考えを3つの選択肢から選び、その理由を自由記述欄に記入するというものである。調査時期は2013年11月～2014年2月であった。以下には、それぞれの質問に対する学生数とその割合、および、選択理由についての自由記述の回答内容を見ていくことにする。

**質問1：愛国心という言葉にどんなイメージを持っていますか。**

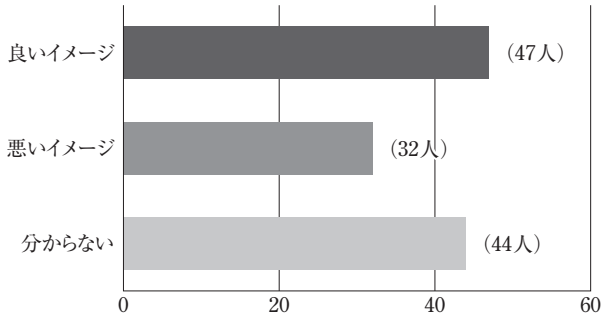


図1

「愛国心という言葉にどんなイメージを持っているか」については、「良い」が38％、「悪い」が26％となっている。「良いイメージ」の理由としては、「国を大切に想うのは良いこと」、「昔の偉人は全部愛国心を持っている」、「愛という言葉は良いイメージがある」、「国のために協力的に働ける」、「祖国を愛することも出来なかったら他国の文化は尊

40）　文部科学省「中学校学習指導要領解説道徳編」2008年、pp. 47-49

重できない」、「自分の国をよくする気持ち」、「その国の人間として必要」が挙げられる。「悪いイメージ」の理由として、「人間の一人一人の思想についての問題である」、「戦争中の教育を思い出す」、「固執してしまう」、「戦時中の国家観教育」、「宗教みたいなイメージ」、「右翼に傾ったりすると悪い行動につながる」、「保守的な考え」、「国のために死ねるというイメージ」、「強制するもの」、「国のために命を捨てられる覚悟というイメージで教育されてきた」、「宗教的に信じ込まれているようなイメージ」、「戦時中の国に洗脳されていた日本のイメージ」、「自国のみを賞賛するもの」、「こわいイメージ」、「思い浮かぶのは世界大戦がメイン」などが挙げられる。他国の例を挙げている回答が多数ある。「ある国のせい」、「自国を愛す＝他国をにくむというイメージがある」、「ある国は単に国をまとめるために反日とセットにして不満を外に向けさせているだけである」、「ある国は民族をまとめるための政治的戦略と使っている」、「サッカーの試合である国の選手の行動がひどかった」、「ある国は愛国心が強い、他国から恨みを買う」、「ある国は行き過ぎた教育で過激な思想を招いている」、「ある国で大統領が亡くなって国民が心から泣いているところを放送で見て、理解ができない」などが挙げられる。

**質問２：学校で愛国心を教える必要があると思いますか。**

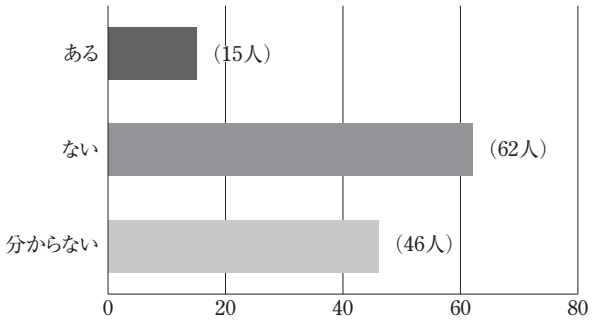


図２

「学校で愛国心を教える必要があると思うか」については、「教えたほうがいい」が12％、「教えないほうがいい」が50％となっている。「学校で愛国心を教える必要がある」の理由としては、「私たちは実際、あまりきちんと日本の国旗の意味などをよくは知らない」、「伝統が失われている」、「国に無関心の人が多い」、「今の人たちは平和ボケしている」、「自国について知るから」、「学校以外で学ぶことが少ない」、「他国に対して何かしらの考えを持つとき、自国のことを知っておくべき」、「日本はこんな国なんだよっていうことを教えることによってもっと好きになると思う」、「少しは日本人としての誇りを持った方がいいので教えるべき」、「日本で伝統文化と向き合う機会が少なくなっている」、「日本人のいい所を言われると嬉しい気持ちになる」などが挙げられる。「分からない」の理由としては、「個人の意見を尊重すべき」、「教えなくても自分の国が好きということは学べる」、「そういうものは勝手に生まれる」、「自分で考えること」、「個人の価値観を尊重すべき」、「保守的な思考になる」、「外国とうまくやっていけなくなる」、「教師の勝手だと思

う」、「個性がなくなる」、「教えてもためにならない」、「学校で教えなければならないのか、親であったり、他に学ぶことはある」、「愛国心というものを知りたい人だけが知るべきであると考えているので学校で教える必要があるかと言われると分からない」が挙げられる。

「学校で愛国心を教える必要がない」の理由として、「必要かどうかは人それぞれであり、愛国心を強制したところで何もない」、「愛国心教育＝戦争中の日本の教育だと思う」、「他の国を認めるのも大事」、「日本は個人を尊重する国」、「積極的な国家観教育は狭い視野を持つ可能性がある」、「憲法に思想の自由が規定されている」、「教育によって強制すべきものではない」、「小中学校で教えられるのは洗脳に近い」、「学校は特定の考え方を教える場所ではない」、「独裁国家の足踏みになりかねない」、「日本人どの年代に聞いても『日本が好きか』という問いには理由を付けて自信を持って好きと答える人が少ない」、「日本は自由な国」、「日本は国家観を教えられていない」、「周りの事が見えなくなる」、「自己中心的になる」、「他国の良い部分も取り入れながら進化すべき」、「特定の政策や政府を応援するような教育は必要ない」、「知りたい人は知って、知りたくない人は知らないで良い」、「誰もが受ける内容ではない」などが挙げられる。

**質問３：小・中・高校で愛国心について学んだことがありますか。**

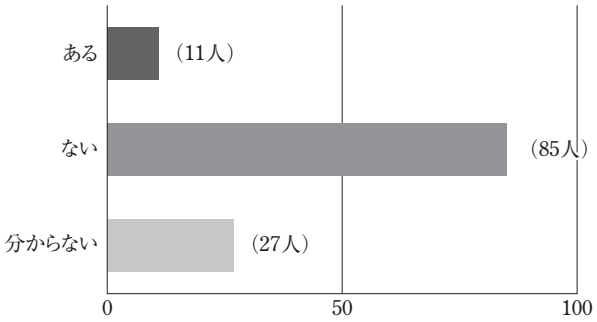


図３

「小・中・高校で愛国心について学んだことがあるか」については、「愛国心について学んだことがある」が８％、「学んだことがない」が69％となっている。愛国心教育を受けたと答えた学生は、「日本は安全だとしか学んでいない」、「たんたんと歴史について学んだだけ」、「小学校の時、人の気持ちなど学んだ」と書いてある。そのうち、一人は在日朝鮮人である。「在日朝鮮なので朝鮮学校に通っていた。学校では言葉や歴史を深く学び、朝鮮人としての自覚をもった」と回答している。「受けたことがない」と回答した学生が理由と書いているところが非常に少ない。「教わるという感覚ではなかった」、「認識は本人に任せられた」、「愛国心という言葉すらあまり使われてない」、「愛国心は個人で思うことが大事」、「教育で身に付けるものではない」、「考えは人それぞれでよい」、「自分で考えていくもの」、「世界は日本だけでできているわけではない」、「強制的に教えるものではない」、「授業すらなかった」、「覚えていない」、「記憶にない」などが挙げられる。

**質問４：あなたは、愛国心を持っていますか。**

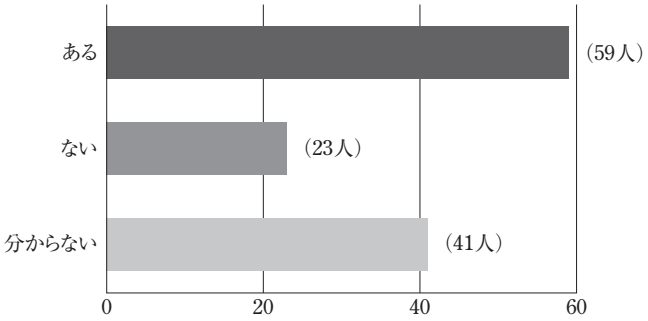


図４

「あなたは、愛国心を持っているか」については、「愛国心を持っている」が47％、「愛国心がない」が18％となっている。「愛国心がある」の理由としては、「ずっと日本にいるから」、「この国に住んでいると愛国心ぐらい湧く」、「日本は治安が良くて住みやすい」、「この国に生まれたから」、「生まれた場所なので他より多少好きなだけ」、「生まれた国を良く思っていたほうがいい」、「自分の国を好きなことはいいこと」、「国を愛しているからこそ良くしていこうとすると思う」、「家族や友人が好き」、「父と祖父を尊敬している」、「愛する人が住んでいる国」などが挙げられる。「愛国心がない」の理由としては、「愛国心にメリットを感じない」、「個人に自由がある」、「外国人と日本人、皆人類というもの」、「宗教みたい」、「どうでもいい」、「国を愛している人なんかあまりいない」、「必要な場面を感じたことがない」、「あまりに意識したことがない」、「生きるために必要ない」、「自分の生活に支障が無い」、「平和ならどこでも良い」、「国民第一と口だけで言っていて、何も感謝できることをやってない」、「愛国心にかかわる勉強をしていない」、「各個人の考えなので」、「下手な愛国心は他国を嫌う傾向になる」、「愛国心に生産性が見えない」、「日本に興味はない」、「他の文化を認めることが大事」という回答がある。そして、「わからない」理由としては、「愛国心という言葉はあまり聞かない」、「教わっていないから」、「普段からよく口に出していう言葉ではないので意味が分からない」、「愛国心に触れる機会がない」「日本に嫌なとこもある」、「日本は好きだが、愛国かは分からない」、「住んでいる地域が好き、それが愛国心かと言われると分からない」、「本当に誇りを持って生きているか分からない」、「愛国心の意味が分からない」、「今まで考える機会がなかった」、「義務とか言われてもっとガンバレとか言われてもうっとうしい」、「愛国心にかかわる勉強をしていない」などが挙げられる。

「日本に対して誇りを持っているか」については、「日本に対し誇りを感じる」が67％、「誇りを感じない」が４％となっている。「感じる」の理由としては、「安心して暮らせる」、「接近した国と比べれば分かる」、「すばらしい国だから」、「日本人もなかなか面白い」、「他の国に比べて恵まれていることが多い」、「今は昔よりは平和だから」、「日本の技術はすごい」、「豊かな国で生活しやすいから」、「日本は平和な国だから」、「恵まれた環

質問５：日本に対して誇りを持っていますか。

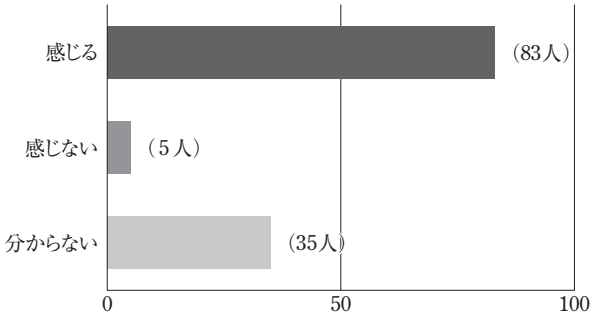


図５

境で今まで成長でき、自然に日本が好きになっているから」、「世界にも負けない技術力など誇れるものがたくさんあるから」、「食べるのに困らない」、「犯罪が少ない」、「先進国」、「優れている企業が多い」などが挙げられる。その他の要因は非常に少ないが、挙げられているのが「おもてなしの心」、「世界に誇れる文化や思いやり」、「わびさびの精神」、「日本人は人に気を使える」、「大和魂」、「今まで日本を作ってきた人の子」、「人とのつながりが深い」、「食文化」である。「誇りを感じない」の理由としては、「日本は過去に色々あった」、「別に誇れることをしていない」、「日本で日本の良さについてあまり教えない」、「日本は政治家だけに任せているからどんどんだめになっている」、「日本人は無関心、無知すぎる」、「日本の教育方法で社会で生きていく常識を知ることはあまりできない」、「日本人は欧米化して逆に良いと考える」などが挙げられる。

### （３）日本人学生のアンケートの結果から見える愛国心の意味

以下、日本人学生の自由記述の回答を参考に、彼らが愛国心をどのように捉えているかについて考察してみたい。

自由記述式の回答に表れる頻出単語を列挙してみれば４つの概念が推察される。まず、１つは、愛国心を自然の感情として捉えているものである。「ごく自然のこと」、「誰もが持っているもの」である。その他に、ただ単に生まれた場所、たまたま生まれた国が日本だった、平和ならどの国でもいい、どこに生まれても多少の愛や誇りを持つというような考え方も伺える。これと関連しているように思われるのは、愛国心に対し良いイメージを持っていると選択した学生が、その理由について書いているコメントが非常に少ないことである。これに対し、愛国心に対し悪いイメージを持っていると回答している学生のほとんどが、その理由についてコメントを書いている。なぜ、愛国心が良いかというより、なぜ、悪いのかを書くほうが書きやすいようである。

２つ目は、愛国心という言葉は、ナショナリズム、国家主義という言葉と同じような概念である。愛国心という言葉に対して悪いイメージを持っている学生は26％いる。愛国心は個々人の生活を統制していく制度であると受け止め、そういうものは好ましくないと

いう考え方が強いようである。自由記述でその理由として取上げられている単語には、次のようなものが見られる。「保守的な思考」、「自己中心的」、「独裁国家」、「宗教的」、「権力」、「差別」、「右翼」、「堅苦しい」、「戦争」、「無理やり」、「押付け」、「決め付け」、「執着」、「気持ち悪い」、「国のために死ねる」、「戦争中の教育」、「強制」、「反日運動」、「命を捨てる」、「偏見」、「脳洗」、「意味の無いもの」、「宗教と同じ」、「反感」、「捻じ曲げられた歴史」、「偏執」、「行き過ぎた愛国心」である。彼らは、愛国心教育が他国との戦争などに繋がってしまうリスクがあることを指摘している。愛国心教育を過激な内容の教育としてイメージしており、愛国心という言葉に行き過ぎた愛国心や熱烈な愛国心を感じているようである。

その一方、ある特定の国を悪い例として挙げ、排他的な愛国心という悪いイメージに連動させている回答も多い（図1）。

愛国心は、ナショナリズムと混同されて理解されている傾向があるため、「愛国心の定義」や「意味が分からない」、「愛国心はあまり使えない言葉である」、「愛国心という言葉はあまり聞かない」、「普段からよく口に出していう言葉ではないので意味が分からない」という回答がよくある。彼らが友人や地域が好きというが、それが愛国心かは分からない、あるいは、「日本は好きだが、愛国心と言われると違う気がする」と回答している。地域に対する愛着はあるが、その延長線として国を愛する感情を自分が持っているかどうかは判断できずにいる。愛国心の定義はあいまいなものと感じられているようである。

愛国心がないと答えた理由として日本が抱えている社会問題等を挙げている。たとえば、政治や雇用問題などである。政治家は何も感謝できることをやっていない、「過去にいろいろあった」、「今の日本に対して誇りを持てない」、「金のある人だけが生き残れる残酷な国」、「日本に嫌な部分もある」と回答している。モンゴルのような悪いところも含めた無条件な愛国心と異なり、ある意味、冷めた目で国を見ている。

3つ目は、祖国愛に限らず人類愛までに広げられた愛国心である。「グロバール」、「人類愛」、「異文化共存」、「自由」、「人間平等」、「外国受け入れ」、「世界全体」、「世界は日本だけじゃない」、「他国軽視」、「国際化」、「他国をにくむ」、「世界平等」などの単語に表れているものである。愛国心は祖国だけではない。愛国心はすべての人類の平和や平等を願う愛である。たとえば、歴史について「相手国から見た場合など多面的に取り上げる必要もある」、「グローバル化しているので他国の良い部分も取り入れながら、進化すれば、もっと良い国になる」というような内容の回答が多い。この観点からすれば、愛国心は人類愛や世界平和を前提とする場合、はじめて真の愛国心といえるとの考え方といえよう。

4つ目は、愛国心は、実際の生活で必要ないという意見である。「なくても困らない」、「どうでもいい」、「面倒くさい」、「関心がない」、「興味がない」、「義務はない」、「なくても生活に支障が無い」などである。意味がないものであるので、愛国心について教えてもためにならない、生きている上で必要ない、生産性のない、自分にメリットが感じられないものである。

さらに、国に対する「誇り」と「愛国心」は違う概念として捉えている学生も見られ

る。愛国心を持っている学生は47％いるが（図４）、日本に対する誇りを持っている学生は、それより多く、67％いる（図５）。他の外国より豊かで秩序のある社会で安心して暮らせていることに対して、誇りをもっているが、日本の伝統文化などを取り上げて誇りに思っている学生が際立って少ないのが特徴である。

次に、愛国心は、「学校で教える必要はない」と50％、「分からない」と37％、「必要がある」と７％回答している（図２）。学校で愛国心を教える必要はない、自分が愛国心教育を受けていないと思っている学生が圧倒的に多いのが特徴である。彼らは「愛国心」について教えられていないと言う。「愛国心という言葉すらあまり使えない」、「授業すらなかった」、「覚えていない」、「記憶にない」と回答している（69％、図３）。

愛国心教育に反対する理由として、次の３つの考え方が伺える。これらの考え方は、日本における愛国心の概念を理解する上で多くの手がかりを含んでいるように思われる。

１つは、「愛国心」は「自然の感情」であるから、「愛国心教育」は必要でないという意見である。「愛国心は生きていく中で自覚するものである」、「教えなくても自然に身に付けるものである」、「愛国心は教えるものではなく育むのである」、「愛国心は、自然に国を愛する心情」であり、「人の価値観」であるので強制するものでない。「生活していく上で愛国心を持てばいい」。この視点から、国へのや愛は自発的なものでなければならないので、愛国心教育は必要ないと言える。

２つ目は、愛国心を国家主義、国益主義、国家優先などの概念と同一視し、国に服従する人を育ててはいけないという考え方である。愛国心教育を「国家観教育」、「強制的」という言葉で表現する回答が少なくない。知りたくない人は知らないでよい、誰もが受ける内容ではないという考え方である。国家は価値観を強要してはならないという立場である。この観点を学生の言葉を用いて表現すれば、国が愛国心を教えることになると「政府にとって都合の良い人間を育成する」危険がある。愛国心教育を特定の政策や政府を支援するような教育としてみている。日本は、愛国心などの「特定の価値観を人に押しつけない」傾向があると感じており、それに賛同しているようである。彼らは日本は「国家観を教えられていない」ので「自由な国」であると評価している。愛国心を思想として捉えるあまり、愛国心という言葉自体がタブーのようになっている。この視点から愛国心教育は必要ないと言える。

３つ目は、個性への尊重を前提として愛国心教育を捉えている。制度としてではなく、個々の人格や内面的資質が重要であるという考え方である。「個人の自由」、「個人の尊重」、「信条の押付け」などの表現がよく用いられる。日本は「個人を尊重する国」であるので、愛国心は強くない、そもそも国を愛するかどうかは、「個人が判断するもの」であり、学校でわざわざ教育するまでもない。「事実をどう認識するかは本人による」ので、愛国心を持つように教育する必要はない。たとえ、愛国心について教えられても、愛するかどうかはその「人の自由」である。この視点からみると、愛国心教育は、「思想・信条の押しつけ」であり、「個人の思想」、「良心の自由」を侵害するものである。この視点は、愛国心と個人の自由を互いに矛盾するものとして捉えられているので、愛国心は学校

で教育するものではないという。

## 4．むすびに

日本とモンゴルの道徳教育における「愛国心」という概念は、評価が大きく分かれている。その理由は愛国心の見方に関わっているように思われる。これは辞書を引けば分かるという単純なものではない。

故郷や国への思いは、どこの国でもそれほど隔たっていないと思われる。ただ、愛国心一般について論じることは難しい。愛国心はそれぞれの国情に即して考えなければならないものであり、国によって異なった形で理解される感情である。愛国心については、歴史的な出来事や時間という文脈の中で解釈される。ましてや、同じ国や民族の中でも異なる多種多様な愛国心が存在する。また、各個人は愛国心について様々なイメージを持っており、異なるものを意味することも多い。本研究のアンケート調査だけでは、日本人学生の愛国心から連想する感情は、愛国心に関するすべての立場を網羅しているとは言えないが、日本とモンゴルでの愛国心を比べてみると、そこに愛国心という言葉の捉え方に違いが見られた。

日本人の国に対する気持ちを愛国心という言葉を用いて表現するのは難しい。モンゴルでは、愛国心と領土愛、または祖国愛は、さほど大きな差がない。どちらも愛国心として捉えられ、同じような意味で使われる言葉である。モンゴルで使われている愛国心という言葉を用いて、日本と比較する場合、日本では愛国心という言葉を使うより「日本に対する誇り」、あるいは「生まれ育った地域に対する愛着」などの言葉を用いたほうが、それぞれの国における実情についての正確な結果が得られると思われる。ゆえに、言葉を慎重に選ばないと調査結果を的確に捉えられないことを確認できた。

今回のアンケート調査を通じて、モンゴルと日本における愛国心という言葉の捉え方が異なることを確認できた。日本では愛国心は国家主義、国際的な視野、個人の自由などの概念で表現されるのに対し、モンゴルでは伝統文化、国づくりなどの概念で表現されている点で違いがあるように思われる。また、日本では愛国心は学校で強制的に植えつけるものではない。人生の中で培われるものとする考え方が多いのに対し、モンゴルでは愛国心は自発的なものとあると同時に、教えて育まれるものでもある。知識に基づいて学校でちゃんと教えるべきものである。この観点がモンゴルと日本の異なる点であるといえる。そのほか、モンゴルと日本における愛国心教育の異なる点は、個人と国家に対する概念であるように思われる。モンゴルでは、近年の著しい経済発展で環境や社会全体への配慮の欠如や利己主義的な人が増える中で 愛国心の大事さが強調されている。個人と愛国心は対立する概念として意識されていない。成熟した社会や個人主義、持続可能な発展という概念と愛国心という概念がしばしば用いられる。それに対し、日本の愛国心教育では、個人主義を軸とした考え方が強く、「愛国心」の対極に「個人主義」という価値観がよく表現されているように思われる。日本では、個人主義意識と国家意識の両立が愛国心教育で

もっとも重要な課題であるように感じた。これが両国の愛国心教育の異なる課題である。

モンゴルと日本で共通して示されている重要なキーワードの１つは「伝統と文化の尊重」である。両国で文化の理解を尊重する態度が郷土を愛することにつながるとされている点で同じである。モンゴルでは、学校生活の中でモンゴルの伝統的な文化などについて子どもたちに教える、あるいは行事を皆で行う機会が多い。モンゴルの伝統的な礼儀作法、慣習、生活様式などの伝統文化に関する知識について教える「公民教育」が特別に設けられている。初等教育における「伝統・慣習」は公民教育の７割、中学校で５割を占めているのが特徴である。伝統文化の良さを自覚し、モンゴル人としての誇りを持つように、モンゴルで「伝統と文化の尊重」に関する教育が積極的に行われていると言える。

一方、日本では、「伝統と文化の尊重」とともに、学習指導要領で示されている重要なキーワードの１つは「国際的視野」である。「国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する」心情を育てることを目標としている。「他国には日本と同じように、その国の伝統に裏打ちされたよさがある」ことを理解させることに重点を置いている。祖国を愛し、伝統や文化に対し誇りを持つという健全な愛国心は国際協調の精神を併せ持つことで育まれるという視点である。偏狭な自国意識から脱却し、世界全体という意識と両立した愛国心教育が重視されていることが分かる。今回のアンケート調査でも「国際的視野に立つ」という表現をが学生らもよく用いている。「他の国や文化を認めるのも大事」という回答が多い。これは、日本人学生にとって好ましい愛国心教育のあり方であるようである。彼らが自分が所属している場を世界全体にまで広げている。その一方、個人と国家の関係を対立の関係として捉え、国家に束縛されていない、自立した個人を理想としているようにも伺える。

つまり、国際的な視野を重視している反面、自国に対する関心や意識が薄いように感じさせる回答が多かった。18％が自国に対する愛国心が無いと回答している（図４）。人類愛、世界愛という割には、身近な生まれ育った国に対して、興味や関心がないというような回答が多数ある。自国に対する誇りは、「生活環境が整っていること」、「食べるのに困らない」など、社会の治安や技術・経済的な豊かさを強調した回答が多い。経済的な豊かさであって、精神的な文化や伝統についての誇りがあまり表明されてなかった。恵まれた環境があるので国に対し誇りを持っているが、その誇りの気持ちが、国を良い国にしたい、そのために自分も貢献したいというような思いにあまり結びついていないように伺える。「愛国心に触れる機会」もなく、「愛国心が必要な場面を感じたこと」がなく、「意識したことがない」という。その一方、「日本で伝統文化と向き合う機会が少なくなっていること」や、「国に無関心の人が多くなっていること」、「日本の文化が薄れていること」、「伝統や文化に対する愛着も希薄になっていること」に対し危惧を抱いている学生も少なからずいる。このような考えが愛国心教育の必要性を理論付けているといえるかもしれない。

それに対し、モンゴルでいう愛国心には、先行研究や教材をみるかぎり、人類愛といった概念が強く表現されていない。風土、習慣、伝統文化に対する愛着が愛国心の中核であ

る。自国文化の素晴らしさを教える教育をただ単に推進しているようにも受け取れる。文化伝統の尊重が強調される一方、日本人学生が指摘しているような、愛国心の長所や短所など、愛国心の様々な意味合いについて子どもたちに教えていない。この点で、日本の社会科や道徳教育の学習指導要領で重視している「外国の国旗も尊重することの大切さ」についての指摘が大いに参考になる。愛国心を涵養させるために、習慣や伝統について教授し、習慣づけをしただけでは、子どもが習慣に従って行動するだけになるのではないか。学校内外の教育を通じて、穏健な愛国心を内面化する子どもはもちろんいるだろうが、それとは別に愛国心を過激に内面化して、多様性や多様な文化に対する寛容さに欠けた子どもが誕生する可能性もはらんでいる。このように考えてみた場合、モンゴルの伝統の果たしうる役割とは何か、真の愛国心とは何か、国への愛がどのように形成されるのか、その動機付けや内面化の指導方法についても議論を重ねる必要がある。

今回は、先行研究と教材からモンゴルにおける愛国心の意味を、そして、日本人学生へのアンケート調査から日本における愛国心の意味をさぐり、比較した。今後は、モンゴル人学生にアンケート調査を行い、比較したい。

**参考文献（引用文献は省略）**


ウランバートル市教育局『公民教育の指導資料』（第7学年及び第11学年、教師参考用資料）Urlakh-erdem出版、2012年。

B. Galbaatar『尊重すべき習慣・価値観』小学校第3学年および第4年生用教科書、Ikh-nirun出版、1997年（“Ариун ёс” хичээлийн 3-4 ангийн сурах бичиг）。

Sh. Shagdar『モンゴル教育史』Bembisan出版、2000年（Монголын боловсролын түүх）。

R. Darikhuu, Z. Tsendsuren『尊重すべき習慣・価値観』中学生用読み物資料、Sod-press出版、2007年（“Ариун ёс” хичээлийн унших бичиг）。

モンゴル科学アカデミー『モンゴルの倫理思想史』Arvin-sudar出版、2009年（Монголын ёс зүйн сэтгэлгээний түүх）。

モンゴル教育文化科学大臣の2012年5月3日付け第A208号令「12年制普通教育学校の第4学年及び第5学年の公民教育の内容」（Ерөнхий боловсролын 12 жилийн сургуулийн 4-5 ангийн иргэний боловсрол хичээлийн агуулгын хүрээ, БСШУ-ны сайдын тушаал）。

モンゴル教育文化科学省『12年制普通教育学校における公民教育（第4学年及び第12学年）カリキュラム』2011年、ウランバートル（Ерөнхий боловсролын 12 жилийн сургуулийн 4-12 ангийн иргэний боловсрол хичээлийн хөтөлбөр）。

モンゴル教育文化科学省『初等教育における公民教育カリキュラムと手引き（第1学年及び第ら第3学年）Inter-press出版、2011年（Ерөнхий боловсролын 12 жилийн сургуулийн 1-3 ангийн иргэний боловсрол хичээлийн хөтөлбөр зөвлөмж）。

モンゴル教育文化科学省『初等中等教育スタンダード』Sod-press出版、2003年。

L. Altanzaya, Ts. Delgersaikhan『「人間と社会」教科指導資料　小学校第4学年』、2011年（“Хүн-нийгэм” хичээлийн сургалтын хөтөлбөр хэрэгжүүлэх зөвлөмж）。

小森陽一、三宅晶子、俵義文等『教育基本法改正』学習の友社、2003年。

大内裕和、高橋哲哉『教育基本法改正を問う』白澤社、2006年。

藤田昌士『学校教育と愛国心』学習の友社、2008年。

文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』2008年。

文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』2008年。

（キーワード：愛国心、愛国心教育、公民教育、公民的資質、ナショナル・アイデンティティ）